



平成 30 年 5 月 30 日

# 塩竈市観光振興ビジョン勉強会

## かわら版 vol. 1

### 【観光振興ビジョン】勉強会に若手事業者などが集結！

平成 30 年 3 月に、塩竈市のこれからの観光事業の方向性を示す「塩竈市観光振興ビジョン（以下：ビジョン）」が策定されました。今回はビジョン策定時に、策定委員会の副委員長として御尽力いただいた法政大学講師の金子 和夫先生にファシリテーターを務めていただき勉強会を開催しました。

勉強会には、ビジョン策定時に意見を頂戴したワークショップメンバーを中心に、観光・商店・飲食店・加工・宿泊・交通・各種組合・まちづくりなど様々な業界で活躍する方や新規メンバーなど観光への熱い思いを持っている市民の方が多く参加してくれました。

金子 和夫先生からはビジョンのアクションプランを進める上で、新しい人との繋がりやコミュニティの必要性、自分事として常に問題意識を持つことの大切さなどのアドバイスや他自治体での取組み例についての紹介がありました。また、参加者からは「ビジョンの実現を目指して私たちはどう行動していくか」をテーマに一人一人の考えを話していただき、「自分のできることを先ず行動したい」「仲間と語り合えるビジョンの輪を広げていきたい」「外の人意見も聞きたい」「ビジョンの取組みを市民皆に知ってもらうため発信力を高めたい」などの意見が出され、今後の観光まちづくりにあたり「ビジョン」の理念および内容を共有すると共に、活発な意見が飛び交う会となりました。



(1) ビジョン勉強会…講師：金子 和夫先生

## ～民間と行政の両輪で力をあわせて！～

この勉強会で、もう一度ビジョンの内容を把握・確認し、実現するためのヒント・方向性を見つけてもらいたい。ビジョンにある「千年の歴史と美食にであう港町・塩竈」のコンセプトから、塩竈を理解し、まちづくりすることが大切。ビジョンでは、ターゲットを明確にしているの、それに向けてブランディング、ストーリーを描く必要がある。

ワークショップでの意見を中心に策定した、4つの観光拠点エリアのアクションプランだが、行政がやるのは施策であり、実際に行なうのは若いメンバー。すなわち行政と民間の両輪で塩竈の観光振興を進めるのが大切である。

他自治体の例から、コミュニティの必要性、常に問題意識を持つ、若い人のアイデア・意見を大切にする、新しい人を繋がりネットワークを広げるのが成功へのヒントとなる。また、日野市では、資金について市に予算がなくても、他から引っ張ってくる考えで中小企業の補助金などを活用しメンバーで活動している。

例えば、今後のスケジュールとして、回数と目標を設定し、10月までに4～5回集まり、アウトラインをつくり、11月頃に市や会議所などに実行したいことを伝えられたら、形が見えてくるのではないかと。アクションプランを皆の力で達成するためには、外部の人の意見を聴く機会や思いを話あう場が大切であるので、月1回は集まる・かわら版で情報共有・発信するなど積み重ねが重要。



### 【開催概要】

- 開催日時：平成30年5月30日(水)18時30分～21時00分
- 開催場所：塩竈市吉番館 5階
- 参加者：17名(金子和夫先生+スタッフ4名)
- 司会進行：津川氏(キュレーター)
- 講師：金子 和夫先生

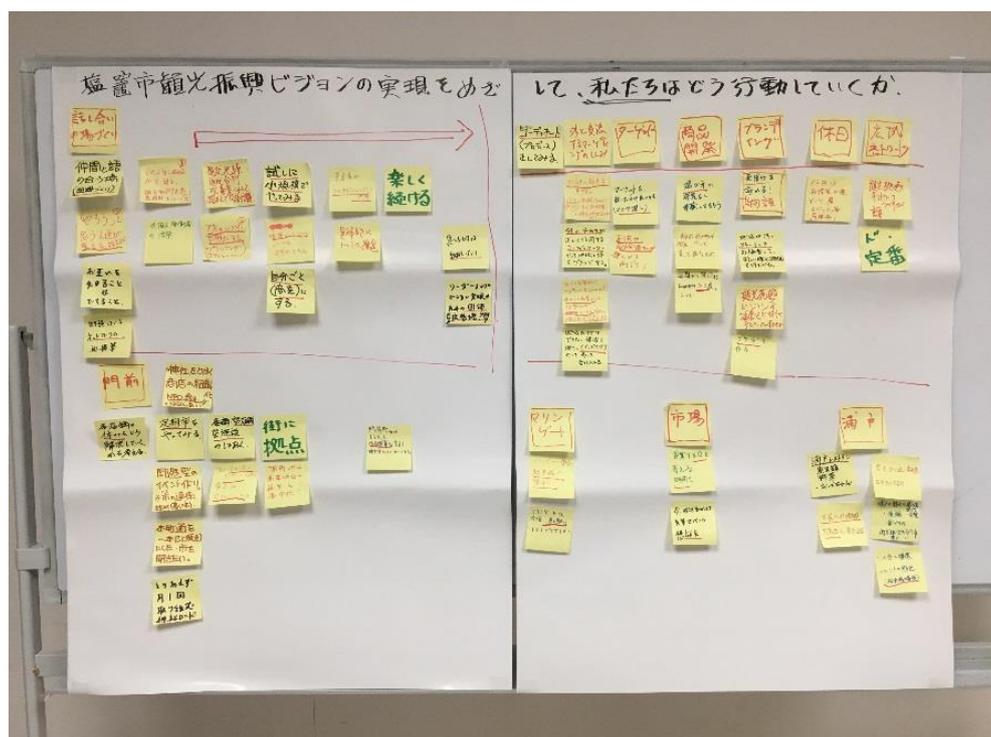


## (2) ビジョンワークショップ

### ◆《ビジョンの実現を目指して私たちはどう行動していくか》

参加者一人一人の考えを話していただきました ※下記は主な意見の抜粋

- 「日曜日の営業に向けて、まずは自分の店の駐車場を使って定期市を考えている」
- 「門前町や市場の営業日・時間改善検討」
- 「浦戸の農産物の売り先が無いという課題があるので、作る人・売りたい人・やる人がいれば、その場で食べてもらう島レストラン等が出来ないか」
- 「最初はやる気のある人を集めて、アクションプランを形に出来るか考える」
- 「観光振興の最終形をイメージする」
- 「皆が統一して紹介する塩竈のド定番をつくる」
- 「仲間と語り合える組織・場をつくり、自分達がこの集まりを楽しくやることで、長続きさせる」
- 「自分事として捉えるために、自分の商売に結びつける」
- 「創業希望者の参考になるよう空きテナントリストを作ってみる」
- 「マリングートの駐車場を無料にできないか」
- 「クラウドファンディングで資金集めを出来ないか」
- 「マニア向けに、マーケットを絞った変わったPRが出来ないか」
- 「(高知県を参考に)塩竈の案内が出来る人に、バッチ配布」
- 「塩竈の人口の1%が外国人であることから、知恵や力を借りられないか」
- 「お土産の広がりを目指す/浦戸の形あるお土産を作ったらいいと思う」
- 「マリングートを道の駅のようにするため、ノウハウを知る」
- 「浦戸の魅力をストーリーとして話す/本土から近い離島であることをもっとPRする」
- 「DMOのように、外の視点で塩竈の良いところの編集・連携を手伝いたい」
- 「神社を取り巻く商店やNPOで話し合いたい」
- 「門前町の現在やっているイベントを継続・拡大し、周遊型のイベントを目指す」
- 「塩竈は通過型観光であるため、各観光拠点のネットワークを強める」
- 「現状分析・改善案を考え、アクションプランをひとつずつ推進していく」



## 【まとめ】

今後は観光まちづくりを志す若手メンバーとともに、全体でのワークショップではなく、4つの観光拠点エリア毎に意欲のある人に参加していただき、アクションプランについて話し合いを進めながら、具体的な推進に取り組み、交流人口の拡大、観光消費額の拡大を図るため、市民、事業者、地域、行政が一体となって観光振興の促進を目指して行きます。

次回は、7月頃にビジョンの話し合いについて、皆様にお声かけします。



発行：塩竈市観光交流課 人・まち交流係

住所：〒985-0052

塩竈市本町1-1 老番館2階

電話：022-364-1165

FAX：022-364-1169